

平成 20-23 年度 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (B)  
「語彙とテキスト理解：読解に関わる語彙知識の多面性と語彙の意味について」

研究代表者 堀場裕紀江

## 2008 年度 研究概要

本科研プロジェクトは、テキスト理解にかかわる言語（語彙）とそれに関する知識（語彙知識）について理論的・記述的・実証的研究をし、その結果に基づき言語教育に向けての有益な示唆を提供することを目的とする 4 年計画プロジェクトで、初年度にあたる 2008 年度は以下の活動を行った。

言語習得研究としては、主に語彙テスト研究とテキスト分析研究を行った。語彙テスト研究では、平成 14-16 年科研費研究プロジェクト「テキスト理解と学習」で開発した語彙テストを参考に、初中級から超級までの日本語学習者を対象にした語彙テストを開発し、学習者と母語話者を対象に予備調査を行った（堀場・松本・深谷）。中国の日本語学習者を対象にした調査では、語彙力の他、文理解、会話・口頭発表能力の測定も行った（堀場・松本・岩本・木川）。テキスト分析研究では、読解研究分野で用いられている様々な理論・方法を検討し、日本人英語学習者の再生データ（平成 15-18 年科研費研究プロジェクト「英語語彙習得研究」で収集）をテキスト内容構造と語彙習得の観点から再分析した（堀場・深谷）。成果の一部は国内外の学会で発表し、学術雑誌論文として発表した（堀場・松本・深谷）。また、年少日本語学習者の日本語能力検査に向けての資料収集も行った（岩本）。

言語研究としては、事象アスペクト現象に関する長年の研究成果を著書として出版した他、テンス・アスペクトについて言語テストによる検証を試み、引き続き、状態化の類型について概念意味論的研究を行った（岩本）。また、文脈中の一人称代名詞「自分」の出現について調べるために、明治・大正・昭和初期の小説・戦記・シナリオ・辞書・文法書を対象にした調査を行った（木川）。